

## 森喜酒造場

1893年に設立された森喜酒造場は、5世代にわたって同じ家族の所有で経営されてきた。多くの酒造場とは異なり、森喜酒造場は依然として従来の酒造りの方法に依存している。米は燃料油ボイラーで加熱された甑で蒸され、その日本酒の一部は手で混ぜられている。森喜酒造場を際立たせるもう一つの特徴は、杜氏が女性であることである。その杜氏は森喜るみ子さんという。

女性は伝統的に酒の醸造と販売に参加することを禁じられてきたが、るみさんは決してその伝統に負けなかった。1980年代後半、彼女と夫の秀樹氏は、醸造場で父親に加わり、蔵元でありながら杜氏となる道を選び修行したのである。るみさんは自分の酒を造り始めた頃、「夏子の酒」という漫画を読み、漫画の作者である尾瀬あきら氏と友達になった。そして、1992年には尾瀬あきら氏が描いたるみさんの肖像をラベルとして瓶に貼り、自身のブランド「るみ子の酒」をデビューさせた。

酒造場の所有権を引き継いで以来、るみさんと彼女の夫は焦点を移し、伝統的な技法と現代的な技法の両方を駆使し、高級純米酒だけを生産するようになった。野生酵母と地元産の原料を使用する森喜酒造場は非常にユニークである。実際、有機米の一部は酒造場の近くで育てられている。杜氏として30年を経たいまでも、るみさんは、家族が何世紀にも渡って引き継いできた伝統を守るだけでなく、より新しい大胆な風味の日本酒の醸造にも取り組んでいる。